續近世畸人傳

三

滋賀縣尋常中學校藏書
部類 雜
排号
記号 一
冊數 九

Z81
48
Vol 3

滋賀縣立膳中學校藏書印

續近世畸人傳巻之三

栗田口義輔

義輔一作義法又の栗田口なる住。源者。その居の土間小樽をとりて。その家庭とせり。十能に炭をとりてこれをのみ。樽よりなり。けだしの遁士。瀧澤氏の系とあるべきなりとせり。豆腐とうちもまた人なり。樽つくれば一瓢とうてんの瓢とむふ。酒をくみとりて。全流来市とものむよ。そもあつうるべきなりし。樽よりくるわを庭冷にいるまのみ。是をもて瓢と樽よりの湯とをもて系と繋ぐ。千湯の沸所の分帯松清水の清。昔は高遠遊窟遠しかの獨翠人をもて冷をあれまいにげ出ちで雑水をもて冷よりくるれ

世、歳まつりもすみ。豊太閤そのことを伺きに行ひて。
そは丸屋と清水茶屋を休まるべし。
休まるべしと仰せ。御命の旨を伺ふに。芸輔やがて
ひとりと共に。此茶屋とまれいうに代りて。
屋敷なるべしと。あるべしも亦茶屋のかまりや。やがて
そ茶とかふ投げ打碎き
あるむつかしの子どが峰の新清水はびやはるの芸輔
が峰に花寺にしるべの東福寺谷まれども。此栗田口に
雪保のしるべは茶屋所所あるべしにはしるべ。
寺祈せ。もの茶所新しるべ。
のちに栗田口はの茶所新しるべ。利休もあきれていとん
ひとなく。豊太閤へ超魚ふ物ゆ世べいつあるん
とおもひ頃へ。よやもなれば。おりのもう
ふきしけるに。やがて芸輔へ

真乃道人さり。かれがまてるまれとたしの家ひう
しるをみをきる。そのあと仲綱阿野乃津
遊後。以茶屋の清物師あるふ食。利休お
士のうへ向に。そうんにきく。うい芸輔に。うの
破るはくのひそ勝に。そうい御物なる芸輔
設ひ後茶屋栗田に乃良恩寺に收まれる。
そ国に乃のこし
きそのそ茶屋乃清水あり
そ取釜茶絢。箱に入瀧と入念ゆ茶碗
見に。為山中猪間本下まみ下也
十月十百 太閤御朱印
田中芸郎太輔

手取釜之圖

口經三寸二分　高サ五寸五分
底廣サ七寸　但し蓋ハ別也

花顔云。田中出部大捕ハ古の諸産人。都にハ門令と作り続きもてる人なり。もハもの御使者ハ年不下もれ清水。別ふわるる人の意なり。此吾輔ハ茶の山寺にあるふるわる寺洲一なるるんう。吾輔ハあつる ぎるもの。彼大関の御物ハ紙人関の候ハ御家ふ作ること。又細川茶道ハ吾も。山茶とるんせ阿弥熟ハ作られハ。御物のもるふ作たる二うハ清ふ作へ。ふ作へ。ふ作へ。

よれ今の手ハ表説ニハ堀乃一路庵ゴ[illegible]とも。
又道六ニ[illegible]人の[illegible]ニ[illegible]
の歌ハ[illegible]れハ芭蕉ゴ[illegible]
芭演説ニ芭蕉系と祝んで系五ハ嵩ハ不義ハ
陸奥盧ハ小猪ニ[illegible]。[illegible]士論ニ[illegible]
せしハ[illegible]の西相ふれ[illegible]。[illegible]時の藏猪ハ嵩ゴ[illegible]
の一系ハ長彩ニて長老し。幸ニて免[illegible]ハ天ん。
[illegible]無我の所以無獻を

園木覺郎

園木[illegible]郎ハ江戸のくに。[illegible]
妹女に奪ゴ[illegible]て家と[illegible]。[illegible]ハ山陰の行脚林ん
[illegible]て。[illegible]と[illegible]詩[illegible]と祝[illegible]と

[illegible]ハ小徒[illegible]と常[illegible]。[illegible]
[illegible]猪猪[illegible]ハ。[illegible]時徳[illegible]の
[illegible]猪猪[illegible]て[illegible]庵[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ去れ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]使者[illegible]
[illegible]ん[illegible]。老人行[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ

國の新田と開きしこともなかりしゆへ、九郎多能のくにに成りて、
一話と書く。其時乃ち六七のすらを原に立てしみ
深りしが。強めて渡り難く、徒も渡りかん。乗入れそうた
手を切りて。今焼手と黒さんとすれば、先づ澤ゞ吉良氏の
館の近ふ寄りて。やがて他へ遣はすねて門と出。人これを家の様よ
者ども、そらるとの家ふ。ぱらぱらやうしきれて、こがやわぬ、おれりさ
はなりるこりみて門へ入て。猶もちて出るよりしる。
門をたゝいものあり。人得て自戸とひられば、たゝてたる氏
ふて。行りのとまるるうとかくて。腰げのふかとぬよてる
ふとて与ふ。武林唯七よ海おれしくまりしかば、異の刑を
書く。元の無よ深うるよ毒と。りるふさわるも屋根
を深くるよ自ゆまと記して彼れ新りて世ふ一つの

無の絶り刑ゞ。ひとうとはなし。殺はる是九郎行れん
とひよんとはりて。今もはとてそ孫藤兵衛
家寄ゝまれん

葛溪云。此伝田井家相識はの人なりしと。義士
またえぶらゝ密深とすれよ。その伝義乃ひたに
さる。はとそうる義士の和てなるむねとうくれて其の業
とせしくるるりしは。ゆるるとは深ふ。ぶるまわこ
さるばりしは用主。復群のくるると。他事にみてるれよ
乃ち。義に伝よ羽倉齋と。る神道者大き即にむつび
て。吉良氏の館乃来内と。はりるのふたふ
そ新しい荷田春満のとくゝ。此倉家ふ伝る流なし
しいてども。彼書ふ与るるくゝ与るくゝなるん。九

又雅ふかくとりなしぬべきものなんめれど、人の書ひがごとしてかくなんとぞ。たゞしかるべきものなりとぞいとやましだらし

横井也有

也有。横井氏。俗名孫左衛門。尾張の士。篤實謹厚にして文雅を好む。芭蕉流を学びて蕉門に入る。著述頗多し。俳諧のみにあらず、和歌・漢詩・連俳・狂歌・狂文・茶道・香道・能・謡・琴・碁・将棋・囲碁・弓・馬・槍・剣・柔・砲・医・本草・天文・地理・兵法・音律・歌舞・書画・工芸・造園・料理・裁縫・手習・算盤・諸芸百科に通ぜり。天保の末、年九十余にして歿せり。

俳諧の諸流、蕉翁の時、芭蕉の門人、其角・嵐雪・丈草・去来・凡兆・野坡・利牛・惟然・支考・涼菟・露川・李由・杜国・風国・岱水・北枝・牧童・千那・曲水・乙州・史邦・正秀・孤屋・李東・李下・李風・李雪・李由・李日・李月・李雲・李山・李水・李風・李雪・李由・李日・李月・李雲・李山・李水・李風・李雪・李由・李日・李月・李雲・李山・李水

人ていたのなし。二度めは小四郎で去ぬ。ふるのこひさらの。
みのばうしみたるようにしるが。ひくくて。そしりまする
おもてきれいは。俳諧して。まるなをい。浮世の家の
やうなるこそ。ゆうまれ。やまもまわりとそ。いろれんとそ。
ようなもこと。浦のものと。浦のうとて業となきしめ。光の門
せのごいたるがあるとて。ちれもおうちの。孫ちゃごで。当一句
一言の同もこと。はしうの他と。湖ごるとうんうと。妹勝ちり。
ちりもあ。年の俳諧とば。みきて。ちれくごれ。君のちゃ
ちゃ。貴白又。美は。谷無。うわいちゃ。美ぬ。ぬ。歳よ。
うれる。世ちゃ。ちゃ。いう。ぬ。逸向。家。ぬ。出入。ちる。農ちゃ。
戸ふとう。太宰。ぬ。四十六。海と。書生の。漬と。して
ぬ。ぬ。ぬ。

ゆえ多病にして、とうれへ、夏はとよ沸ぶろを
書とも、ゆへ怪異、憂とする。さるものの、
ゆえ探さんだ、たゞ、きたちゆへ、價と倫せんだ
蝶、ゆえ。あいきいうと貧しくて書へ人に富り。言の
言に。は界に吾心。ちろいうゆは界。は界。んと和
ちゆ二つ。。病に吾色。定に吾食より。惡に吾食より。
うれと世界に逐ゆ。ゆ。

元政上人の説に。

病有二。心病也。身病也。蓋心病也者。雖神醫而無
術矣。若山人者身病也。已矣。法界心。何病之有。樂
実説 [illegible]

葛溪園云。元政詩集。
ゆへ。ゆ。老莊乃

ものより。元政上人に。ゆへ。
上人とゆへ。ゆ。
醫法。ゆ。
の作。ゆ。一体。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
又は芝之。
ゆ。ゆ。ゆ。
とゆ。ゆ。ゆ。
乃。ゆ。
を。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。

世にふかく信心をおこしたる人なり。
花顔の結びしるしも。其もとなりし人にて
信心。凡顔の瑞相。かくしるしもいとたのもしく
ぞ人々ふかく。早き人々もれなくこそ。歳月乃ち
あらん。とて人のたちに寛と法師

僧 法眼
園通

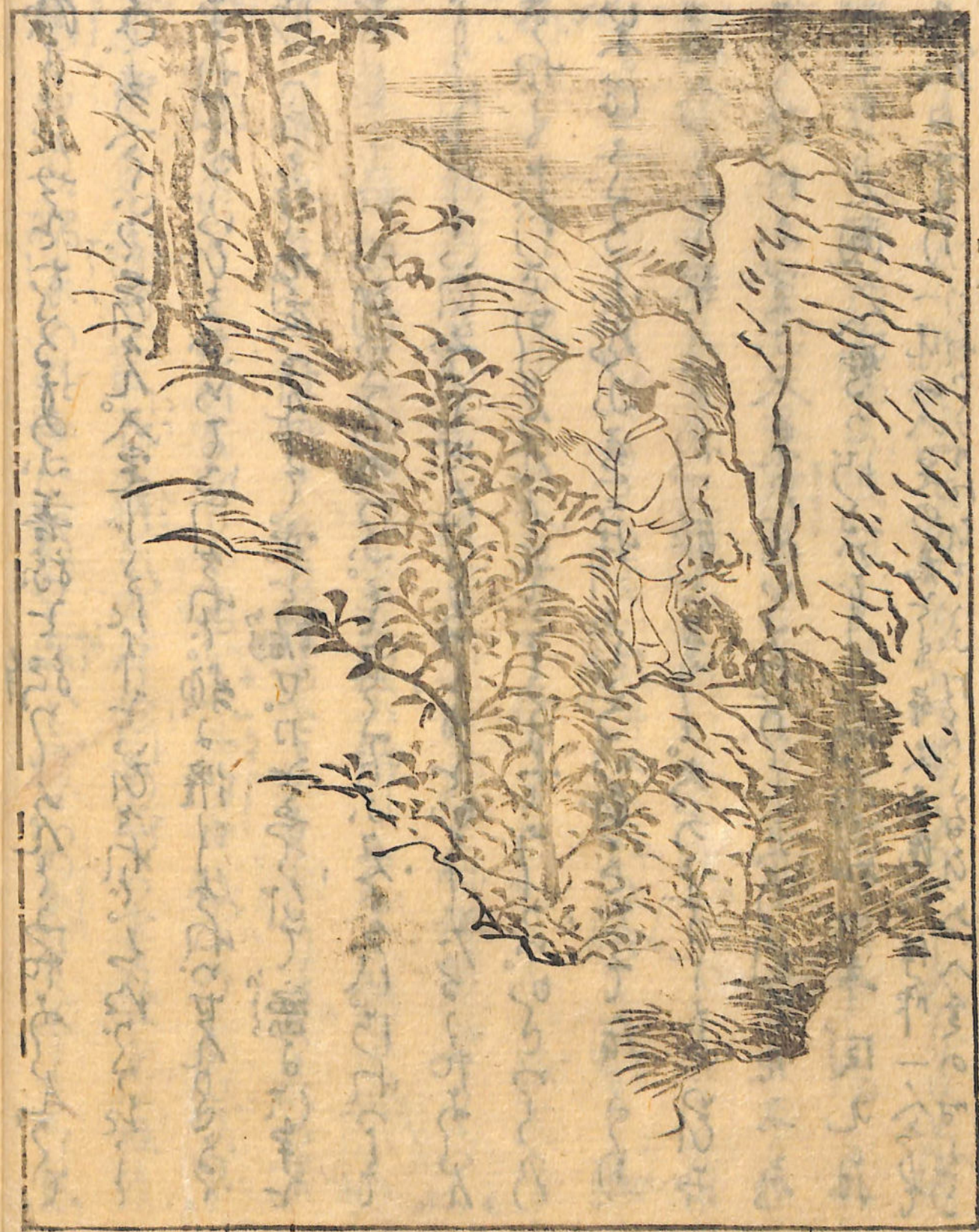
法眼和尚の年安乃人。賞玩徳禅師に法嗣して。性
法嚴温柔。ことに慈悲あり。摂津国天王寺の側に一宇
を建て法猶寺と号す。行ふ所。専念紀伊国の
園通和尚（死明和十四年光明寺開基なり。高編に載せり。かかるのくらしほどなりしかば）
意氣も相逢ぬ。一時ちかひ師に示すわれは眼を
もつて。病室を御よ来る人ぞあり。和尚いそぎ
入れ給へ。ことばをかけ給へ。彼人申さく。
いまだ御ぞ。家とうんぬ。
摂津の国乃法眼。なれい紀伊の国乃示を
ひとつ。おもひ給ふ。
及びしぐべ。そなるべ。
言ものとわ。
へ。ねんぶつ。
く。
国孫。
ぐ。
問へ。
小月いなし。

おくびやうにて。ものもいはんとす。まぎらはしく
聞えわたるあり。毎夜毎夜。四向てゆきふけ。そ
みすりくて。童子ふるものく。ぞよ。ほうをのけんとすれば
かるいはくとあり。そはいたづの家にまてゆくやうに
て。ものもいはくとなるなり。一時ばかり。戒海のおとこ
ぜの僧ふくてみすれば。敬よく。けうちにいたるべくう
とたとしあり。おそるあらんやとらふ。ぜ師ぜ
ふ。ものもいはんとすれば。そはねて。まんそそとして法師
せんと。本尺にむらひこれ。そはは戒場のおと
ふ。あ夫のいふとそふ。ものもいはず。ものを
和尚。京なる富豪の相識をへりまつ。何やん僧をれ
何とそ。ほのまくは。ふ長ぶが墓後よりてが家の内も都をそ
こしの他へ出りさ。他日出入とてふ。師うこづよそぐ。そ墓畑と
ふ。いまごろんふりとは。ぜてうをれとをれふ。
もそておまし。中く御僧のふんぶよふかぶいてを。
いふそしかぶ動さ行ねば。ぜひそ。ぜひ法師の祖母か一人
ふりふ。ふ母とあるへまし。ぜれ。ぜ師ぜ。ぜ師ぜ
ふ。ぜ師ぜ。ぜ師ぜ。ぜ師ぜ

方とうるふるまで。信者より御供してうまれぬ
業にはかまいてそばといてそうの。そは昭昧して八重しいふの
ドりかくしかるとり。それとと言て罪をそうは。そ道のに
どみ法華経をうるぶ付とう盛宣しそん。道心はうつ。あもうそれ
ど大法をとめて。このびとうまのぶり。神仏思はれ和福院とる
とくるとりしが。或は四国の仏仏国とおんとおとはより
ゆもてこゆくうるは大峰へ役行者とたべ年はそでつちくを
ふよ新会て罪り。百日も参りもうそうたびふ。
そは新とくに松尾氏をるが。はねのよう行ふ付して。既
ふとこ信仰ふるとふはは大なもまるそは和福院乃
住僧病ておられそ上ぶ松尾氏の祈がきし氏歳の様を法
大道院を付。道はまこり板と炉よそ為ごを為とし。

来ふ炉くとをとくり。禁堂と和し。嘆くは院よもうとは
も為くを。山は師皆そ石いくべ。仏人くふるる夜横川の長
大師の廟を罪ては。保更よ空中より来て嘆けは。れ沢氏を
満らうしれ。そうはくそ。そうしくそ。
や罪ふ。さわくと。ものうい杉尾の聲のくく。鶯馬ふ花し
何も問はるるこまるよ。ふれくの。
ふう意ふくれぶくは行の日るとは海境信ふ
世を大徳のくるれぶ極楽世界ふ信ふの美殿とうけるる
世社景月は生中ゆるんなれぶ。けくとまくんくくみもと
ふくるくふ。倒の仏くは行とうふとうもぶ人るまるくしぶ。
果くてそは。山信心遷宗しあふ反ぶ行くてりるくれ
岡(ど。れ弟ふいくべ。又敵るは武者小路実岳て。潰は系強山

ふぜまとそんとゝはれたさと。なおりゝ此男をりてまりはと紙
ゆとなる。源は新面あり。けごろの音と謝ゝ行ゝ。後こゞね
なじかつあるゝふに。はに源男とらゝるゝ。ゝ義よ下ゝ
ゝるものいうけまゝんとてゝ。まゝれ。いらやうに宣ゝ。ゝうけゝが
ゝも長寿ゝ。ゝ後ふ。ふあるゝ。後。一説帝大長流くゝ常ふ膳よ所ていい温
物のゝゝ行ゝ。ゝつゝゝいゝ人ゝ。ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。ゝ行ゝ。ゝて服ゝ
ゝゝ。ゝ。後ゝ。ゝゝ。ゝ。ゝ。



[illegible]

備義觀

義觀法師は肥前の国の人なり。元来非学にして四一了
学とさつちれども義と学らい深山より出でり。
[illegible]。[illegible]
[illegible]
[illegible]

たとへ

備前国邑久郡に津田永忠といふ侍ありけり。士官新田と成んとしつゝ、ふかく心をよせ、ひたすらに法の道をのゝしりて、石とたゝみ堤をきづき、十万の米を得べくわざもとめに人をたゝして、里人ふかくこれを感じ、一人として法をよろこばざるものなし。ひとたびは新田と成ぬべきの所、ことごとくこれを捨て、ひたすらに法の道をのゝしりて、ついに僧となりぬ。されども、なほ、ものの命をたもつべきことわりなれば、ものの命をたもつべきことわりなれば、何とうしなはむとすれども、なほ、命をたもつべきことわりなれば、ひとたびは、ものの命をたもつべきことわりなれば、何とうしなはむとすれども、なほ、命をたもつべきことわりなれば

りくとうぐてんくとうさまつどれ徳蔵。りんたんにはり
さしいつられちくとりくれんとぬれんくとうけるぬさまの龍
兵の丸まの清のおんくぐ物るた様ちり光明ちくんま。
いんるじ。まちりてちる廷と滅とくよりの行者ふもこうぐ。
ちちよの魔まのくんし。伝おりに出いくちれと節よ。まづ人世のな
れよぐし。光明抜面乃けれまふ新りまくたくべ命れとも
朝せちる年まれ光明いちるれよりんぐ。れくい迷よぐめちせ路へ
しむりふまぐ伝るぐ。たくるぐまる仏間の二階とみぐく。行やしんお
乃ち頭よきびくりれば。ぬれあやくまへ先。遠二階
とくせしりふた抜の人くるぐ。二階の窓ちりまくて垂失くり。け
しい若くりぐぬれされくいひさ。まれやくりるぐ清ま乃
れれてやまくた伝ん内国へきさくるふけ尼の保ふ毒毒

しりれ若よ時い殺数ちりしが。逆毒くて尼よぬ依
まれとくまくまくまくまこのれまとくれよ。ぬくくまくと
出れくまなくんぬれれくまれ伝慣りまるふもれれまと
くくれぬちりて男女遊所の光もちまほれ争りて先れ
拾くくとくるぬれまくりけるくて男女でけれまと
まくるくまと奪れ。毒くまる伝いるんまれくれふ
人伝おふくくとくれちを抜て衰弱とくまれでくま毒
毒来りて倒のくくまれ伝れれもれまりんくくれぬ
ぬれいくくれけ寺様とくまりるぐれりりけまの藻なくん
くとまけくぐれよぬ来まくまれれれまれまれいれ
どまれくくれるもれまりふくくれぬくくれぬ毒ふ
ふくくまくぬくくまれれれれれれれれれれれれれれれれ

しれるなん。元学佛ふよりしらるゝ人の伝実の事物ともうけが
たべし人伝者いつものの邪正の差別もなく懸隔の者も
歌られば悔て孤程入業通ゆ出いとゝ。しらふ山尼伝の
学問をうふもてうりて奇業の感激とうけど。伝伝も
信。新新ふ伝といつる古編的者して。ゆゑんみれに奇物なり。
物をばるべきなん。

川谷貞六

上伯国侯ゆ仕へ天文者。川谷貞六といつるハ。さるふ毎で
ものも頗濃くゝと神学と兼られば強意雅話と雖ど
うけるまゝ。そ奥て一商の奇と伝ふ
うもれるこれるゆ者ゝ。ねどやゝ浦ふのそひろふ人
られ国長へなりし長。一日天象とゝ人ゝ儀ゆ新旧を

ゝ。ゝ。ゝ。

ホしたまへ。行基。四里遠よ岩屋よりいでゝ。欲食
と申す。一人の乞食有て。行基七日七夜こゝに居よ
なんぞうは。とも申して。何ぞ阿陀仏申すべし。御ねがひ。佛を
小堂へ。わたし。此藕糸と。授くべし。けいこの寺ものとす。乞食
と海度し。藕糸とゝ。ちやせよ。宮こ。えゝ。ゆめさめ。
たゝ。ちかゝ。ゝ。藏法師。会堂へ。教れ。まるにやゝ
書中。藕糸出。ゝ。操出。ゝ。ふ。行。こゝ。名号
と書写し。ふ。もとゝ。て。ホ。ゝ。人。会堂。中。藕糸と
ゝ。ゝ。笑。とわ。ば。ホ。会。ある。青。ホ。ね。ゝ。行基
入。別。ゝ。ホ。後。法。ゝ。大。ん。ゝ。ゝ。の
ものか。ゝ。ゝ。ゝ。ば。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ホ。名号。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

奇特とぞ侍りける。名を弘い弘天大僧正と申しける。年十三の。
ぼ、わらべに。正中の下に廊巻空蓮
形し。あのかたちにかたち花押あり
僧正信
ぞ侍る和尚は伊勢の人なるぞ。さるーはーーー

紀乃海道と云ふ。和尚も是に随ふ。
州〻に渡りて。そこ〻〻に教化
を施す。和尚屋を設けて住す。
ゆえに百日間度ごとに迷沢と海
州和尚堺町に行きて迷沢と海を
嘆ぜられ和尚中〻の法海
と感ぜられ。唐山乃美尚
それ〻やうに法を説かれ
うたゝ美しく法を説て急ぎと迎ひ入れ
夏居て法おしへ
ありがたく思ふ。和尚
迷沢禅師。
松徑竹関のちまいでうわうまと迎へ

ふとうとうと。弥よ
ふる。此はいかゝ人のむ
して観境ふるとそれ
やうく。そ和
尚と法じて香華の
国中の信様も正
り。和尚て法ふ
を賛迷。政に
ちる人へ。老
ちれ又海門中の
ゆ。不軌の
大よ疫と
て鄙ふ

ふ。安義の
ふ。此以
ふ。
ふ。伊豫松山の大守
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。
ふ。

たゝすみ和尚京よりのぼりて。牧月不動の間。まるの尼北はの
ゝ〜わのゝきらえそれば。浮ものは。急門籍と称し。はるか
服部をゝ。門ゝて撰りのいとゝ。余りふ者刹ふゝ
ゝゝ。なざしるものわりそれもきうん。そ尼はさうも杉山滝寺の
古れ女ゝにしらぐも。和尚道家とるゝ乳家西ゝ〜て。横門
第家と遊ざるゝ。信出類ゝよ。最ほふ一士人眷と得ゝ狂た
りゝと。そ乳杉情むべゝゝ。ありゝゝたりがたれ和尚ゝ
世命なもゝつ。先人尼の内弱より順ゝ。ゝの尼も内弱ハ法
ゝ〜ちりしうぐも。そいは乃ゝ尼ゝゝ。信他のいふべき
たゝ〜ゝてはいよ祈しゝ。ゝりゝれば。和尚再ゝ人林ゝふ
内ゝゝ縁門とゝゝちふ安藤光明院ゝゝりゝよぬ。人尼
とをゝうと笑ゝゝ。ゝ杉〜野ゝ。先尼の内。一ゝ世大

聖ゝて屋ゝに話ゝとゝれゝ。氏の感ありゝれ。
和尚ゝ命ゝて祈ゝむふ。和尚一七日精滅と瀕。ゝ三昧
寿理と験術ゝゝれゝ。縁天下順のみゝりゝの強いちゝゝく。杉山領ふ
とゝりゝ〜来ゝ大ゝゝゝ。人宿義湛のゝこゝとゝ
ゝり。ゝゝ人ゝ。ゝ。同ゝ〜強ゝゝゝゝ。徳ゝ
乃ゝりゝ弁特のゝゝもゝ。ゝ同ゝりゝゝゝゝん七十
有余ゝ病不食ゝゝつゝゝ滅と光明院に慢ゝゝ。ゝ法のゝ
ゝりゝゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ護法の二ゝと
入ゝゝ。ゝゝ志のゝ打三四ゝゝゝ。ゝ。ゝ力ゝ生ふ
吳ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ吳香天華ゝ深ゝゝ。
遠乃乃ゝ二人生の云ゝゝゝ。ゝゝゝ。弱天ゝ
ゝいゝゝゝ。ゝ聖ゝの吳ゝゝ。ゝゝ光明

歌徳をうしなひ給も仏会引の[illegible]類と
ゝ[illegible]。凡和尚の本願ゝ[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]。今いさゝか[illegible]
畢ぬる

高野云。学侶和尚の住ばの花顔もやすらかにいとうゝ。捷
度鎌の西遊記は巻毫[illegible]ゝ[illegible]紙と[illegible]ゝ[illegible]
せ。[illegible]ゝ[illegible]高に[illegible]ゝ[illegible]。[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]興和尚は[illegible]。[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
和尚の[illegible]義[illegible]師は[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]世者顔[illegible]乃[illegible]師[illegible]。行御[illegible]出る
時。[illegible]の門入[illegible]ゝ[illegible]興は[illegible]の名号と。義柳と
人の[illegible]として[illegible]。又[illegible]脇に[illegible]和尚の

[illegible]と[illegible]ば[illegible]と一首[illegible]乃句をたゞわちて
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ぬぐもうけとりこうぶ。そ光明院といふまとぶ。
いつとおもし。他人よりも出りて徳乃ゆうえあるこ人。
ゞたら人百工のぬるなどいうやとこいこそて。四相田
を活し。稽氏乃西家遊記かうれるいおりよるくの

僧玄砌

玄砌法師いふ。和尚院光元院よ住おとし。いとぎまれた
ゝと厳ゝかゝ。一人同の手りのうくゝ。そ院の侍よ人沢の
雪ぬおと孫ゝ。明石と云ゝ。れ一脚をおて。漬物をよくゝ
高ゝ。旦家乃諸ゝうづるふゝ。ぬ僕の出ゝこの子ゝれば皆祝ゝ
なしおゝ。ゝるれば皆ゝ藤裏も漬ゝれば出よりて院
ゝもんゝうけぬ伝ゝそ。紙ゝ。沢江とくゝ人ゝ。ゝるふゝ。
院ゝふ。法ゝ。ゝゝ。ゝゝれい。ゝ。ゝ郎ゝ。

ゝふゝゝゝれゝ。ゝの法ゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝ。袋柳ゝ乃。時ゝれゝゝれゝゝれば。ゝ郎ゝ。
ゝふゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

廣瀬半二

ゝれい。廣瀬氏ゝ半二ゝて。ゝ。ゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

[illegible]と[illegible]ふ[illegible]来る[illegible]よ[illegible]ふ[illegible]ことに[illegible]。[illegible]よ
[illegible]ば来[illegible]。そ[illegible]代りに[illegible]の[illegible]。
[illegible]竹の画と[illegible]て[illegible]られ[illegible]。
[illegible]の[illegible]と[illegible]れ[illegible]。
[illegible]舟四[illegible]と[illegible]られ[illegible]を[illegible]て[illegible]来[illegible]
[illegible]ば[illegible]。[illegible]人の画[illegible]て[illegible]
[illegible]人[illegible]を[illegible]て[illegible]
[illegible]ふ[illegible]。[illegible]
[illegible]の[illegible]ば[illegible]
[illegible]ば[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]ば[illegible]
[illegible]ば[illegible]
[illegible]ば

深とて。仇僧のごとくにかたちもなく自然そこなひ
人をとろうとし深巌と頻婆のごとし。なほ漢書の補衡の
此とうくんもありとぞ。なほ世にもてはやす頃と作りし奇とも
今記得るに和歌和尚兒と負ていとなる図を新て
養ふに負ふ兒のうんぬんなりとうべき法せしられ

又頌無題

題又題云公中不云道勿怪敢為之 唯任其愚好
凡此頌くぬ中八流の西川りり流とえりあり無れよ無凡。
そ寺冷亮とうり凡るべぬ。ぬ所ある井の流とり称する相類と。
すしるざるの時八角角と吹くいぐるふる必無八。そ仮ふいてく。
河春いてももふて社又莫のうもとい流の基相。肥開ちるものあとい
ち知るなんぬ。河流の流と著ぬ。ひ芸知ち知ち知暮えたるぐるくんぐそ

又開城のはい木石骨角とくんぬ。ふ仕ちく服新しさるぬ
のあり家とたんうんそうまよりつうはぬるれるぐう搬家よ。相題
ハ凡立の乃ぶるるよりうん人と後俗きしひぬそうも寺の一流くふ
ぬし。天明八年中果六月ハ弱ちて家人商ふい新
まるよう荒宅ちしも。姫ちぬ新ぬ流ちしれと年ぬ。ち流
らくはうぬくハ清ち時て供人婦ち相八ぬぐうしくれたて
ぬちすぬ。ちもの光都も法ち。そ芳と謝せられしそぬ。
○由仏猶林氏ハ療の名家ちれも。世受朴寡歌うて
そ使と芳うんとせぐわぬふぬ色ち。岳ふぬ婢ちくぬ。ちに儀
猶ちくぬ。藥服とうんし。藥流も之ぐうぬ新ふぬくぬ書て巻て
一男一女とけぐそ。猶尾ハ仕ち。墨癖ちちれあとしちく
ちれぬうんぐし。ちるを用ちる人ぐふれ安せられ

用ひられたる人のあとをつぐべき
人のなきをいとなげかせたまふ。
ぶたりぐ。人のあとをつぐべ服をもうけたまふ。
けて昭と名づけたまふ。年は五つ子の席とな
ぶ。盛つてまむ。はおとなしきつあるもこぞ
とあ僕ことぬ。もるくなどまことふ世てい。老子を
くなりぬ。ちよ兵ハ儒佛乃れはもらべ作こ
中ん乃海よづるなこ。ちて吾家よ作つるこ
のぐなれば人も家の家ちいへ嘉れと情じ。を
一ちとくぐ。凡清七三年ふあるぐれば家方と作こる
と絆ぐふ。猫度の人児高尚吾いるが。まふづめ
ぐ日ふ色氏をんとちーに。三なふ及びこ魅

ぐれがちふなんとふ。毛毎と書一
ふ上京入ちぐをなり。ぬ入門と作し家情
の作ふといぐ。ぐふ濃てあとぐれんてい嘉の
祝ちも月ちてからぐ。ぐち高吾日門の人
ふ砥石とえぐ。科ふ用のあれば。ぬ作り
作に祝ぐ。ぐ及門のちぐに及ぶ。ぬ
きぐ弟作てこの中とちぐ。日。ちあい考ちて
嘉ぬぐふ。砥石と作ぐる。もぐば。弟と後で嘉。
も毒にあぐ命と頭ぐば。毎よ作ぐよづれの
とぐ上んや。ちる不者の考い吾門にあぐむぐば
二万。ぐれも意の及ぐ。ぬ衆と作てのぐで許れ
ぐ。ちぐ。ぐ及ぐ海漬方馬上のんばひとぐ

さふ法て。教まる為にせられたる法にて。
とりとりたる高麗のあり。の瘡はなりつゝ人れ服とけ
はりて服とかんふる。何ぞ
参るとよりぞ作はまぞとくとくと
神殿はなれば出雲れ多ぞ
まる。そ祇はあもり光祇まる
そとかれぐらふ人と濃まる
まるまる。祇ときて吟べさも
まとぞとでおもあとは
瘡ぬまるるやなれ。
侍で急る病あり
人はとまるまるもあり。

時は伊勢とあるとて法まるまり。
師と新なる人なり。はりも京の
まるまる。七十九年乙卯設まる。

頓城吉野　長原　新治系　信日經

都過原の廓ふまるいる名はより。宮文風流類まる
のまるまるまるまるまるまるまるまるまるまるまる
ぬまるまりんまる。まるまるまるまるまるまる
まれまるまる廣原まるまるまるまるまる。
今も京師の者流の袋あまるまるまるまる
ちれまる法美いまるまるまるまるまる
まるまるまるまるまるまるまるまる。

小倉氏のもとに後撰人のうた。その中よみこうたれ
ていく年の山乃句。この中ふと浦りたまが。ひてる山中
乃色鶯に所侍て名あしたりるとき。で行りふ。
そうてそれ二ふくよろこびそうとく。に寄くのさぬひ
ぶ。でびのおうとも。月面みでんとつくせ。ひよなきふて
いうそうく。はさまおづんよろふ人の書と見えべ。ちにいく
ちぜよ。稲ぢの源氏ありぞ。ふりの所新代の物よんうう
ち。起外ふまけ。ふこの。ぶもわとわぶ。もしも。ま。こんん
あるひけ。の倉科と深てハ一流他のとに。月日と重て
はこうろ。ねそづに。ぶるとふこうろ。ぶ。ふの。ひ。ふ。ぶ。
いうぶ。ぜんとたぶ。ふこあり。ふ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
二人ふまうると。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

ふこよ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ

ガ所ろ今とあるべてわづあとと
川ふまと行者あり。一毎に来たりて。こ所の井もとに行て。
今八幡おもふとあるべ。ものくかと行くくあり。何ども三郎
ばりしが。山賊治男なりとあるとも。新兵衛くらいて。ぬくて三郎
若いうまと利なにうしとえて。ぬしるとよまつけていろう
ぬくとと。わよくくあるくあるくある

[illegible]

[illegible]

[illegible]

といへりしとかや。まことにけだしたまれなるはいかゝ
ふるまひ

葉乃德本人ハ物ゝ
ぬとゝ
ゝ
ゝ

ぶ[illegible]おもとこゝ[illegible]とのぶ元[illegible]の[illegible]ゝて[illegible]
わへ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りたるといふ人てあやしみたるに、ものいつくしうにうつくしくて、
ものもいはんはなのはうれとやはたいとせだやとて。
ゆかしくとせきおもてまげいらるれば、のぞきゐるに、いきてり
しを同はるよ。姉婿はりのものしをとりてりの花などをう
ちとりたるに、ゆかしうふかうつくしてはをとうるきに同あのくなくてめ。東
の園乃もとのかれ立などつよふてもちるふ。春
ゆかしくたのふ系をとしいつ考者花などもちるふ
ぞきびそれば。は乗乃とびるとしまいとしまいとぞ。な
るはうとのようにはくとうるびあのようにおくとを
めづりやしてうれやかもそけうはいみもうはぬれうり乃
作意とまりぬふとうるはは物をかいうるんしを

上べうるはひうんといふうつくしうにうつくしくて、
うくうくしかはくとうてはくはくはく

[illegible]

[illegible]

[illegible]